

〈芸術〉 と 〈藝術〉

女子美術大学
石井拓洋
takuyo.ishii (a) gmail.com

2016

〈芸術〉と〈藝術〉

- ・ 〈藝術〉は、そもそも、明治期に、西周が “ Art ” を訳すにあたり、新たにつくった語
- ・ 〈藝術〉の語をつくるにあたり、それが漢字であるため、西は、中国の書を参照した
- ・ 〈藝〉の字は、『論語』や『周礼』(しゅうらい) にみられる。 前漢 (前2世紀)
- ・ 当初、西は〈藝術〉としたが、のちに、その略語として〈芸術〉が普及した

出典：今道友信『美について』講談社現代新書、1973年、75～76頁。

〈芸術〉と〈藝術〉

- ・「藝」の意味とは [今道、75-76頁]

- 「ものを種える」[うえる, 植える] の意味
- 「人間精神において内的に成長してゆく或る価値体験を種えつける技」の意味

- ・「芸」の意味とは [今道、75-76頁]

- 農業用語、音読みは「うん」、訓読みは「くさぎる」
- 「草を刈り取ること」の意味

- ・つまり、「芸」の語は、「原意の藝とは反対の意味を持つ字」 [今道、6頁]

〈芸術〉と〈藝術〉

「しかし、当用漢字の制度では、[芸の字を]『ゲイ』と読んで『藝』の略字であるという風に定められ普及してしまったので、こういう間違ったことに妥協するのはよくないことではあるが、その制度のもとに育っている多くの読者の便をはかれば、この字[芸]で藝の意味を理解するほかはない」 [今道, 76頁]

「『げいじゅつ』とは、人間の精神によい種子を植えつけるものだと思いますから、芸術ではなく藝術の方が、正しいばかりでなく、それこそ美しいと思いますが、致し方ありません」

[今道, 6頁]